

H26年6月1日セミナーに寄せられた

質問についての回答

① 集団生活の中で、「困っているだろう」「しんどいのでは(ないか)」と感じていることを、どのように保護者の方に伝えていったらよいでしょうか?その子の姿の話を求めている方(保護者)もいらっしゃるのです。保護者の方が求めてくるまで待った方がよろしいでしょうか?

○(B君の母より)

『子の姿の話を求めている方』とありましたが、子供が困っている事や、しんどいと思っている事を、子どもの口から話してくれれば、親も状況がわかると思うのですが、子供によってはそのような状況の事を知られたくないと思って親に話せなかったり、話しても良いことを知らなかったりする子もいるのではないのでしょうか?

それで、親御さんがそういった状況に我が子になっているということを、求めているのではなく、単に知らないということもあると思います。

我が家の場合で言えば、学校で息子が友達との関係で困っていることを母が知ったのは、行き渋りという行動があってからでした。そのような行動になるまでに、息子は本人なりに友達に対して対応策を講じてはいたようですが、その事を誰かに伝えるということは思いつかなかったようです。後に担任の先生と行き渋りの原因について話した時に、先生が見立てていた、行き渋りに繋がる原因と、本人が訴えた原因とは異なるということもありました。

先生から見られて、「困っているように見える」「しんどいのでは(ないか)」と感じられる様子があるのなら、集団生活(学校生活の中で)の様子として、「こういう状況の時は・・・困っているように見える」とか、「こんな事を、しんどいと感じているように見えるのですが。」等と親御さんへ伝えても良いのではないかと思います。(お子さんにも聞いてみられたらいいと思います。)そして、その姿を保護者の方ならどのように見るか、お家では、その事をどんなふうに言っているのか、と確認作業をされてみては良いのではないかと思います。

○(Aさんの母より)

小学校3年の担任の先生は、4月当初からAについて気づきがあり信頼関係を築くまでに時間がかかって、学期末の個人懇談まで言えなかったと聞きました。先生も勇気が要ったそうです。経験した中でとても不安に感じたのは、進級の際に先生同士で引き継ぎがなかったことです。

○(支援者 大井佳子より)

保護者の中には、「先生から何も言われなから・・・」と自分に言い聞かせて安心しようとされる方もいます。「言われなから」=「大丈夫」というメッセージを出していることになるということです。集団生活の「気になる姿」を理解したい、そのためには対等な情報提供関係を築く必要がある、という認識が学校関係者には

必要で、「伝える」「わかってもらう」という意識で臨んでいないかが問われるところです。子どもを理解するための情報提供をお願いするというスタンスでも、保護者が拒否される場合には拒否せざるをえない事情が保護者あるいは家庭にあるのだということで、そのことがわかることも子どもをめぐる新たな情報だということです。その認識の上に、学校としての支援計画、子どもに対する計画と保護者・家庭に対する計画をもつという進み方になります。その実践をふまえて、こんなやり方でやってみたらお子さんについてこんなことがわかった、という報告を保護者にし、その話につられて保護者からの情報提供をいただけるかを期待する・・・というふうにつなげていけると、「対等な情報提供関係」につなげていけ、先生から「言われた」ではなく、そういう見方もあるのか、というふうに学校を上手に活用していただけるようになるかもしれません。

② リハビリの訓練士です。今日のお子様の様な子どもたちのリハビリをしています。2, 3歳～就学前の年齢の子をみています。この時期にどのような事をリハビリで行ってほしいと（今考えれば）良いと考えておられますか？今後のリハビリの参考にしたいと思います。

○（B君の母より）

〇〇が出来るように! というものではなく、「人と関わるのが楽しい!!」が一番で、その次は、「この人使える。困ったときは、この人を頼ろう。」と思ってもらえるようにする事ではないでしょうか。

○（Aさんの母より）

質問された方がおっしゃるリハビリではないかもしれませんが、幼児期にAが病院の言語外来で受けた指導は、本人がとても嫌がって行けなくなりました。今考えると、ことばのおくれを直そうとするより、Aは運動全般に問題がないのでトランポリンなどの跳ねるような運動をさせた方が良かったかもしれないと思っています。楽しくなければ拒否をするので、楽しい時間になるのが一番良いのではないかと考えています。

○（支援者 大井佳子より）

リハビリとしてなされるものは、生活から切り離された設定になることがほとんどです。ですから、そこで学習したように見えることは、生活には汎化されないことが少なくありません。ですから、生活で困っていること、苦手なことを取り出して・・・というリハビリ的発想（という言い方は失礼でしょうか。ごめんなさい）で課題を設定されるのは有効ではないと思います。

では、何をやるか?・・・生活から切り離された場所、シンプルに情報整理された環境で、人やモノとかかわれることに意味があると思います。生活の中のようなザワザワ感もないし、見たいビデオが見えるところにあるのに他のことをするように誘われるような葛藤状況もない。そのお子さんが受け入れやすいようにシンプルに情報整理された環境で、人とかかわり、モノとかかわることで、その子の自己発揮がなされ、その子の興味や考え方、試し方が見えてくる。幼児期に「その子理解」がされることが、生活場での支援を拓きますし、生活場の選択の資料にもなります。「できるようにさせる」は置いておいて、その子が楽しむ人との関係、その子が楽しむモノとの関係を探すことに使っていただければと思います。そうすれば、結果的に、オマケとして「できること」はついてきます。これは、発達障害の有無にかかわらず、幼児教育の考え方です。家庭生活や集団生活では出会わないものを用意することで、その子が家庭生活や集団生活では発揮していない自分と出会うよう、ぜひ尽力してください。

③ LD かもしれない・・・と思ったら、石川県内ではどこへ相談、受診したらいいでしょうか？

受診先も含めて総合的な相談に乗ってくれる機関に行かれてご相談されることをお勧めします。

- ・金沢市在住でお子さんが中学生以下なら・・・教育プラザ富樫

<http://www4.city.kanazawa.lg.jp/39110/>

- ・石川県内在住の方ならどなたでも・・・石川県発達障害者支援センターパス

<http://www6.ocn.ne.jp/~path/>

④ B君を最初はLDとかんちがいされていましたが、それがアスペルガー症候群ではないか？と言われた時に、今思えば「ああ...」と思うような事がありましたか？ 4年生に先生と自分の子がいった事、今はどちらが主の部分だと思われていますか？

○（B君の母より）

- ・B君を最初はLDとかんちがいされていましたが、それがアスペルガー症候群ではないか？と言われた時に、今思えば「ああ...」と思うような事がありましたか？

↓

初めての検査では、その時の息子の特徴が顕著に出たのが、「漢字に対しての学習障害がある」でした。それまでLDとして息子の特徴を見ていていましたが、年齢が上がるごとに理解しがたい事も多くなり、アスペルガーもあると言われたことで、その謎が溶けたように思えました。

- ・4年生に先生と自分の子がいった事、今はどちらが主の部分だと思われていますか？

↓

先生が言われたのは、「班活動での話し合いで自分の意見が通らないことか多くなっている」でした。この事について息子が思っていたことは、話し合いの活動では、自分の意見が必ずしも通るとはおもってはいなかったし、自分が出した意見より友達の意見の方が有効的だと思えば納得できた事でした。

なにより、息子が許せなかった事は、友達が「もうしない」と言った事は約束で、約束は守るためにあるのに、その約束を友達が簡単に破る！ということでした。

このような、一度決めたことを相手が勝手に変えてしまうことなどに怒りを感じてしまうというエピソードは、未だにあることです。

★相手が勝手に変えてしまう。と思い込むところも、息子の特徴だと思っています。

⑤ 「宿題ができない、頭が痛いから休む」ということがあったが、「休む」というのは自閉症の特徴なのですか？・乳児期の寝ない、離れない、というのはLDの特徴なのですか？

○（支援者 大井佳子より）

いずれも自閉症スペクトラムのお子さんにも学習障害のお子さんにも見られます。しかし、自閉症スペクトラムのお子さんでも、このようなことがない子もいますし、学習障害のお子さんについても同様です。さらにB君のように併せ持っているおさんは少なくありません。いずれにしても、これらのことは親を疲れさせることから、親をどのように支援するか、という発想が必要なのですが、園や学校は逆に、「甘やかし

ているから」「生活が不規則だから」・・・というふうに親に原因があるように見ることが少なくなく、無言のうちに、親は責められているように感じて、余計に親を苦しくさせる・・・そんな悪循環に陥りやすい「症状」です。

○（Aさんの母より）

Aの様子から、LDだからとか自閉症だからとかではないのではないかと考えています。特徴と言われると、Aは、小さいころは音に敏感でした。映画館、カラオケなど音響のある施設が苦手でした。でも今は、映画もカラオケも友達と行きます。成長とともにその敏感さは軽減される人もいます。あとは匂いや味覚なども少し人と違うのは、脳の機能的な問題なのでしょう。「嫌な感じ」はたいていの人が持っている感覚だけど、苦痛が伴うくらいの感覚をこの子達は持っているように思います。

また、親から離れないのは、わけがわからなく不安と恐怖があるからで、決して親の愛情不足ではないし過保護でもありません。（子どもが小さいころ、よく他人から言われたことです。）そしてそれらはある程度、本人の見通しが立てば安心が得られて活発に活動できるようになるのではないかと考えています。

Aは休まない子でしたが、休めなかった！が今では正しいと思います。

⑥ 生徒本人が自分の小さいころを振り返ったら、どのように思っているのでしょうか。これまで親や先生の対応に対しても、どのように思っているのでしょうか？

○（Aさんの母より）

個人差があると・・・。親から見れば、Aは、つらい出来事も寝てしまえば、消えていく感じがありますが、ストレスとして体が反応してしまいます。

憶測ですが、Aは自分が小さいころのことは振り返れないのではないかと考えています。

先生の対応は、自分が心地よいか悪いかで、良い先生と悪い先生になるようです。

一生懸命苦手なことを直そうとしてくれた先生ほど、Aにはダメでした。私も一生懸命だったころはAにとりダメ母だったろうと思います。

最初の職場での本人にとってつらい出来事は、半年過ぎたころから話し出したので驚きです。きっと自分の中で消化するのに時間がかかったのではと思います。

いい記憶だけとどめようとするのか、Aは嬉しかったことを繰り返し話すことがよくあります。忘れないように無意識にしているのかなあ？と考えています。

○（B君の母より）

今回、このセミナーの資料を作成するにあたって息子に色々確認した中で、息子が言ったことは「学校は、小学校も中学校も行きたくなかった。本当は保育園も行きたくなかった。」とっていました。

親や先生の対応については、詳しく聞いてみたいところですが、もしも、今までの対応を良くなかったと感じていたとしたら、当時の怒りを呼び覚ます事にもなりかねないので、最も聞きたい質問ですが、怖くて聞けない質問の1つです。

⑦ Aさん、Bさんは元々エルテの会の手伝いだったり、企画の準備で関わっていたとお聞きしました。Aさんは以前個別の支援を嫌がることがあったそうですが、Aさんにとって「エルテの

会」というのはどのような認識を持っていたのでしょうか？支援の場（自分が受ける対象）という理解はあったのでしょうか？

○（Aさんの母より）

Aにとって難しい質問だと思いますので、親から本人に確認したことは、一度もありません。あくまでも憶測ですが、自分に関係ある場所・・・という感覚はあると思います。あとは、母が集う場所。自分もお手伝いがあれば参加できる場所。

エルデには歳も近い学生さんもいるので、新鮮なのかもしれません。

支援者の先生方のことは、「相談できる人」「自分をわかってくれる人」と思っているのではないかと考えています。普段の生活の中で、家族以外の人に自分をわかってもらうことはたやすくはないのだと思います。いつも周りに合わせているAなのでその心地よさはあると思います。現在はエルデの会以外でもAが自力でその場所を広げているように見えます。

支援を受ける場であるかどうかということに関しては、支援されるとか支援する側とか、Aには関係ないのかもしれませんが。「普段得られない心地よい空間≡エルデの会」、ではないかと思っています。そもそも、エルデの会の活動は、メンバーが自分達で活動の企画をして実行するのが基本で、支援者はそのサポートをします。メンバーの中ではAが一番年上ですので、支援者のお手伝いをする事が多く、本人は支援される側というより支援をする側と思っているのだと思います。